

植物園と資源植物

- ① 富山県中央植物園の特徴
- ② 公的植物園における植物コレクション
- ③ 資源植物の数
- ④ 資源植物を国外に持ち出す時の規制
- ⑤ 外国産植物を医薬原料とする時の注意点
- ⑥ 中央植物園所有植物を資源開発に用いる時の手続き
- ⑦ 国内外の植物資源バンク、資源データベース

(財)ヒューマンサイエンス振興財団研究資源委員会
富山県中央植物園視察

平成19年7月7日

富山県中央植物園のあゆみ

- 平成元年 「富山県植物公園整備委員会」設置
- 平成2年 基本設計
- 平成3年 造成工事起工式

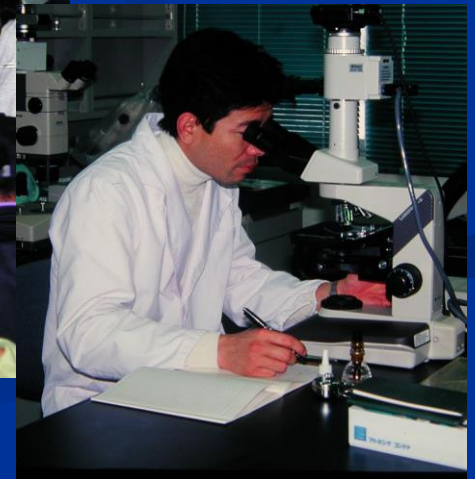
- 平成5年 開園（屋外展示園公開）
- 平成8年 全面開園（展示温室公開）
- 平成12年 雲南温室完成
- 平成13年 昆明植物研究所との共同研究開始



中央植物園の機能

総合植物園

1. 植物を収集・展示し、憩いと安らぎの場を提供
2. 植物知識の教育・普及
3. 植物に関する専門的な調査・研究



中央植物園の特徴



- 面積 24.5 ha
- 日本の植物ゾーンと世界の植物ゾーンからなる
- 約5000種類の植物を収集
- 雲南省から662種類の植物を導入
- 5棟の大型展示温室

中央植物園の調査研究活動

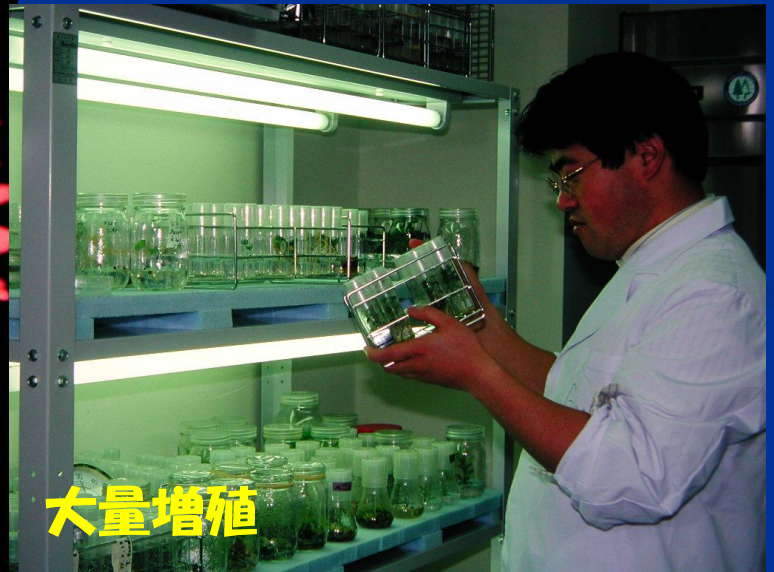
1. 植物園活動の基礎

- ① 導入植物の特性評価と利用の研究
- ② 中国雲南省昆明植物研究所との共同研究

2. 県立植物園としての社会的役割

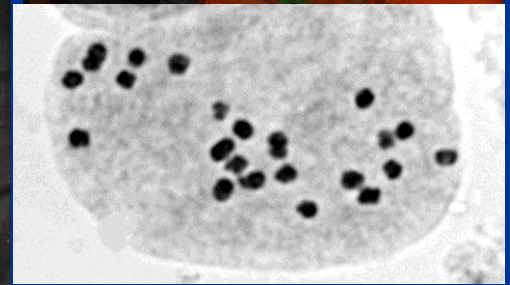
- ③ 富山県の植物相と植生の調査
- ④ 県内絶滅危惧植物の保全

①導入植物の特性評価と利用



寄贈された絶滅寸前の古典園芸植物、**センノウ**が三倍体のため種子ができないことを発見、バイオテクノロジーで増殖と育種を研究。

② 昆明植物研究所との共同研究



平成13年からベゴニアなどの現地調査を実施、30種以上の染色体数を初めて算定。8種類を日本で初めて導入。バイオテクノロジーで大量増殖と育種を研究。

③ 富山県の植物相と植生の調査



許可を取っての標本採集・調査



富山県植物誌改訂のための
標本採集・調査活動

これまでに110種類以上の新記録

立山室堂平の植物相調査

立山センターとの共同事業
(平成14年に報告書作成)

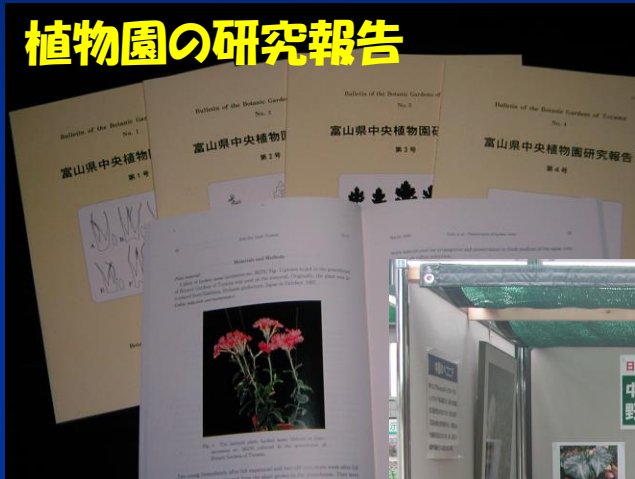
④県内絶滅危惧植物の保全



野生絶滅とされた**県固有植物エッチュウミセバヤ**の再発見。
自生地調査と園内での増殖、保存。

研究成果の公開と還元

植物園の研究報告



日本初導入のペゴニアの展示

新たに12種確認

県中央植物園
富山県内分布の最北端となる準絶滅種「ミソコウジュ」も発見されており、同園では研究発表会を開催する。十六日に発表会を開く。

ミソコウジュ生育 富山が最北端

大原晴技師と中田 五、六月に種々のような青紫色の花が咲く。日本のほかインドやオーストラリアの協力を得て県内の低地を中心に調査したところ、これまで県内で生育している北限であるため、富山が生育地の世界最北端であることも推測される。

大原晴技師は「ポラニアの協力で確認できた。ミソコウジュの生育地は開発が進行しやすい場所なので、今後も繁殖していく必要がある」と話している。このほか確認された植物は次の通り。

- ▽自生種 マルミフタ、アイノヒルムシロクワヤシ
- ▽移入種 ヲシロコ、フユカボ、全国二例目 オニラスギ、トド

中にも、昨年五月に新潟市の河川堤防で確認された「ミソコウジュ」(ソノ科アキギリ属)は、国内では富山県以北で発見された例がなく、日本海側では兵庫県の一例だけだった。

ミソコウジュは湿気がある低地の草原に自生する体長三十五センチの草花で、



研究の成果を示すパネルに見る大原技師
— 富山県富山市の県中央植物園

あす発表会、パネル展示も

学会発表や論文発表だけでなく、新聞発表、植物園の研究発表会で、県民に直接公開。また、成果を展示や教育に還元。

①富山県中央植物園の特徴

②公的植物園における植物コレクション

③資源植物の数

④資源植物を国外に持ち出す時の規制

⑤外国産植物を医薬原料とする時の注意点

⑥中央植物園所有植物を資源開発に用いる時の手続き

⑦国内外の植物資源バンク、資源データベース



(社)日本植物園協会正会員の部会構成

第一部会(学校園) 6園

大学の理学部、農学部の附属植物園の部会。

第二部会(国公立園) 63園

国公立園等の部会。

第三部会(私立園) 14園

私立園の部会。

第四部会(薬用植物園) 36園

薬草園の部会。国内外の医薬品の原料となる植物のほか、ハーブ類、染料植物、毒草などを集め植栽。大部分は大学の薬学部附属植物園で、学生や教員の教育研究の場であるためと、毒草もあって危険だという観点から非公開。数社の製薬会社の薬草園も加入。

公的植物园における植物コレクション

—絶滅危惧植物対策委員会から—

「植物园における保有植物(コレクション)の調査」 の結果について

日本植物园協会誌
第41号 2007年3月

①富山県中央植物園の特徴

②公的植物園における植物コレクション

③資源植物の数

④資源植物を国外に持ち出す時の規制

⑤外国産植物を医薬原料とする時の注意点

⑥中央植物園所有植物を資源開発に用いる時の手続き

⑦国内外の植物資源バンク、資源データベース



資源植物の数

・植物種が豊かな国上位20ヶ国

渡辺幹彦・二村聡編 生物資源アクセス (2002)

・東アジア各国の動植物種数

環境省編 新・生物多様性国家戦略 (2002)

①富山県中央植物園の特徴

②公的植物園における植物コレクション

③資源植物の数

④資源植物を国外に持ち出す時の規制

⑤外国産植物を医薬原料とする時の注意点

⑥中央植物園所有植物を資源開発に用いる時の手続き

⑦国内外の植物資源バンク、資源データベース



日本国外への植物の持ち出し

1) 採集する時の国内法の規定

- ・地権者
- ・自然公園法 — 国立、国定公園
- ・種の保存法 — 希少野生植物（キタダケソウなど）
- ・森林法 — 保安林
- ・文化財保護法 — 天然記念物
- ・地方自治体の定める条例

2) 国外へ持ち出す時の条約、法令

- ・ワシントン条約(経済産業省) — 絶滅危惧種の国際商取引
- ・植物防疫法(農林水産省) — 相手国の必要性による

①富山県中央植物園の特徴

②公的植物園における植物コレクション

③資源植物の数

④資源植物を国外に持ち出す時の規制

⑤外国産植物を医薬原料とする時の注意点

⑥中央植物園所有植物を資源開発に用いる時の手続き

⑦国内外の植物資源バンク、資源データベース



生物多様性条約

(生物の多様性に関する条約)

Convention on Biological Diversity (CBD)

- 1993年12月29日、発効
- 2006年4月現在、187か国及びECが締結。米国は未締結。

目的

- 1) 地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること
- 2) 生物資源を持続可能であるように利用すること
- 3) 遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分すること

遺伝資源へのアクセスと その利用から生じる利益の公正・衡平な配分に関する ボン・ガイドライン

この指針は、生物多様性条約第8条(j)項、第10条(c)項、第15条、第16条および第19条の規定に特に関連したアクセスと利益配分についての法律上、行政上または政策上の措置、また、アクセスと利益配分に関する相互に合意する条件に基づく契約およびその他の取り決めを起草および策定する際の**参考例を提供することができる。**

植物園の種子交換にも影響

- ①富山県中央植物園の特徴
- ②公的植物園における植物コレクション
- ③資源植物の数
- ④資源植物を国外に持ち出す時の規制
- ⑤外国産植物を医薬原料とする時の注意点
- ⑥中央植物園所有植物を資源開発に用いる時の手続き**
- ⑦国内外の植物資源バンク、資源データベース



中央植物園所有植物の利用

現在

- ・共同研究 — 個別に協議
- ・材料提供 — 個別に協議

問題点

- ・栽培管理は指定管理者（財団法人 花と緑の銀行）
- ・植栽植物は県有財産
- ・知的所有権
- ・原産地(CBDによる拘束)

1年以内に問題点を整理し、植物提供契約書、共同研究契約書を整備する予定。

①富山県中央植物園の特徴

②公的植物園における植物コレクション

③資源植物の数

④資源植物を国外に持ち出す時の規制

⑤外国産植物を医薬原料とする時の注意点

⑥中央植物園所有植物を資源開発に用いる時の手続き

⑦国内外の植物資源バンク、資源データベース



Botanic Gardens Conservation International (BGCI):
植物園自然保護国際機構は、地球上の野生植物の保全をより効果的に進めるために、植物園の国際的な連携を支援することを目的とし、1987年に設立されました。現在では、120カ国の以上の800を超える植物園や植物研究機関と協力し合っています。



イギリス・ロンドン郊外(王立植物園キューガーデン内)
に位置するBGCI本部



GBIFとは

地球規模生物多様性情報機構(GBIF)とは 国家・経済体・
国際機関の多国間協約

(地球規模生物多様性情報機構(GBIF)了解覚書)

に基づく国際的科学協カプロジェクトです。

- ・ 科学的生物多様性情報を有する共同利用できる分散型のデータベース・ネットワークの構築に専心します。
- ・ 世界中の科学的生物多様性情報を 皆が自由に利用できるようにします。
- ・ 最初は種や標本レベルのデータを集中的に整備します。
- ・ 将来は分子、遺伝子や生態系レベルまでリンクします。

(2002年4月12日、ハーグにおけるCBDのCOP6でのGBIF理事長ハウザー氏のプレゼンテーションより)



<植物>

牧野標本館タイプ標本データベース

桜のデータベース

コケ類コレクション

GOOの樹木図鑑

Flora of Japan

学名データベース,その他

Species2000Asia Oceania

Flora of Japan Homepage(日本植物誌データベース)

生物多様性情報システム

群馬大学Botanical Garden

生物多様性情報(遺伝・生態情報サイト)

かずさDNA研究所データベース

Shared Information of GENetic resources(SHIGEN)

スギゲノムデータベース

アジア産シダの染色体データベース

培養生物世界データセンター(WFCC-MIRCEN)